

2006年度後期企画展

「秋田の活断層と地震災害」

身近にひそむ危険の
実像に迫る

2006 10/1日 ▶ 11/30日



市民向け講演会 (鉱業博物館3階講堂)

●「活断層からの大地震 — その起こり方と予測問題」

東京大学名誉教授 地震予知総合研究振興会…………… 松田 時彦
日時: 10月7日(土) 午後1時30分

●「2004年新潟県中越地震と災害の特徴」

新潟大学災害復興科学センター…………… 高濱 信行
日時: 11月3日(金、文化の日) 午後1時30分

- 開館時間 / 午前9時～午後4時
(月曜日休館、祝日の場合は火曜日休館)
- 入館料 / 大人250円 (団体30名様以上190円)
小人130円 (小学生以下) (団体30名様以上100円)

- 共催 / 秋田県・秋田大学防災力研究センター
- 協賛 / 中央開発株式会社・応用地質株式会社・株式会社地球科学総合研究所
- 後援 / 秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館後援会



©秋田県の活断層分布図



©千屋断層トレンチ調査地全景 (旧千畑町)

秋田大学工学資源学部 附属鉱業博物館

〒010-8502 秋田市手形字大沢28番地の2 TEL 018-889-2461 FAX 018-889-2465
URL <http://kuroko.mus.akita-u.ac.jp/>



2006年度後期企画展

「秋田の活断層と地震災害」

日本列島には、数多くの活断層が存在している。1995年の阪神淡路大震災の惨状を目の当たりにして以来、活断層—直下型地震の恐ろしさは多くの人々に再認識されつつある。その後も2000年の鳥取県西部地震、2004年の新潟県中越地震など、内陸活断層を震源とする大きな被害地震が立て続けに発生しており、潜在的脅威が我々の身近にあることが実感される。しかし、活断層の多くが生活圏のごく近傍に存在しているにもかかわらず、その実態についてはあまり知られていない。秋田県では、1997年から8年間にわたって、予想される最大地震規模が大きい県内3断層（横手盆地東縁断層、能代衝上断層、北由利断層）を精査し、活動性評価を行った。企画展「秋田の活断層と地震災害」では、この成果を公開するとともに、地震や活断層に関する研究、秋田で発生した過去の地震災害について紹介する。

展示物紹介

能代断層調査で採取された洞爺火山灰を含むボーリングコア、北由利断層調査の海底ボーリングコア、断層岩・変形岩試料（シュードタキライト、マイロナイト、断層破砕物、褶曲した岩石）、横手盆地東縁断層付近の地形立体模型、地震計、地震波形サンプリングの実演、砂箱を用いた模擬断層、液状化現象の実験、変動地形の航空写真実体視、歴史地震を記録した古文書【菅江真澄の「男鹿の寒風」粉本稿（複写）、「佐竹南家の御日記」、「秋田震災誌」】強首地震や昭和男鹿地震などの新聞記事（複写）、日本海中部地震被害状況の写真。



▲シュードタキライト

激しい断層運動の摩擦熱で熔融し、断層の動きが止まると共に急冷されたためにガラス化した岩石。黒色部分がシュードタキライトで母岩は輝石グラニュライト。南極大陸ナビア岩体。